

## 連携先ミュージアム：京都市京セラ美術館 京都市京セラ美術館のプロデュース

美術館の基本的な運営方法、京都市京セラ美術館の歴史や現状を理解し  
たうえで、京都市京セラ美術館の魅力・価値を高める企画立案・提案を行う。

### ■受講生(50音順)

|                             |                               |
|-----------------------------|-------------------------------|
| 五十嵐 遥 (大谷大学・文学部・2年生)        | 稲童丸 優一 (大谷大学・文学部・4年生)         |
| 大久保 楽生 (大谷大学・社会学部・1年生)      | 岡崎 達志 (龍谷大学・社会学部・1年生)         |
| 川口 将也 (大谷大学・文学部・1年生)        | 北川 真由奈 (大谷大学・社会学部・1年生)        |
| 北村 健太郎 (大谷大学・文学部・1年生)       | 木下 スヨン (大谷大学・文学部・3年生)         |
| 黒川 結喜 (大谷大学・文学部・3年生)        | ZHANG FENGHAN (大谷大学・社会学部・1年生) |
| 杉山 ユノ (大谷大学・文学部・1年生)        | 高松 宗太郎 (大谷大学・文学部・1年生)         |
| 中塩 萌 (京都女子大学・現代社会学部・4年生)    | 名田 百花 (大谷大学・社会学部・1年生)         |
| 西濱 有人 (京都先端科学大学・経済経営学部・4年生) | 濱地 健心 (大谷大学・文学部・1年生)          |
| 土方 誠也 (京都先端科学大学・経済経営学部・4年生) | 廣中 碧 (大谷大学・文学部・4年生)           |
| 二股 登馬 (大谷大学・社会学部・1年生)       | 古川 稚恵 (京都女子大学・現代社会学部・3年生)     |
| 山田 龍馬 (大谷大学・社会学部・1年生)       |                               |

### ■担当教員

宮崎 健司 (大谷大学・文学部・教授)

### 活動目的・概要

2020年にリニューアルオープンした京都市京セラ美術館の入館者をさらに増やすため、京都市京セラ美術館の魅力や価値をより高められるような企画を、3グループに分かれて議論、検討しました。

京都市京セラ美術館では、4回のフィールドワークを行いました。フィールドワークでは、学芸員の方に館内を案内していただき、美術館の現状や歴史、リニューアルの狙いや課題等についての話しなどをお聞きしました。それをもとに、各グループにわかれて美術館の魅力向上、発信をテーマに企画を検討し、発表の準備を進めてきました。

新型コロナウイルス感染症の影響により、授業スケジュールも当初の予定から大きく変更となり、また、学外での活動は制限され、グループのメンバー全員で集まって議論する機会も思うようにとれず、議論を行ううえで意思疎通を図ることが難しかったです。そのため、授業やグループ内での企画検討において、オンラインツールを活用し取り組みました。



### ◆主な活動

|                            |                           |
|----------------------------|---------------------------|
| 2021. 4.28 ガイダンス           | 2021.10.27 企画制作①          |
| 2021. 5.12 ミュージアムとは(博物館概説) | 2021.10.30 京都市京セラ美術館FW③   |
| 2021. 5.26 京都市京セラ美術館とは(概説) | 企画案の現地チェック・ディスカッション       |
| 2021. 6.19 京都市京セラ美術館FW①    | 2021.11. 3 企画制作②          |
| ガイダンス・館内巡回                 | 2021.11.10 企画制作③          |
| 2021. 6.23 企画検討①           | 2021.11.24 プレゼンテーション企画制作① |
| 2021. 7.14 企画検討②           | 2021.11.28 京都市京セラ美術館FW④   |
| 2021. 9.29 企画検討③           | 企画案の発表・ディスカッション           |
| 2021.10. 2 京都市京セラ美術館FW②    | 2020.12. 1 プレゼンテーション準備①   |
| コレクションルーム見学・ディスカッション       | 2021.12. 8 プレゼンテーション準備②   |
| 2021.10. 6 企画検討④           | 2020.12.12 成果発表会          |
| 2021.10.20 企画検討⑤           | 2021.12.22 まとめ            |

## 活動の成果

### 1. 白壁の有効活用 (担当: 稲童丸、木下、中塩、濱地、川口、大久保、ZHANG)

高校生以下、大学生の来場者数増加を目的とし、プロジェクターを活用し、京都市京セラ美術館自慢の白壁をスクリーンとして利用することを企画しました。具体的な企画は以下2点です。

#### ①子ども向けの投影型美術体験プログラムの展開

美術館を訪れた子どもたちへテーマに沿って絵を描いてもらい、白壁にあらかじめ投影された背景の上で動かすといった体験プログラムです。



#### ②映像作品等の上映・展示

芸術系大学の学生や美術団体が作成した映像作品や作品を映像化したものを、白壁に投影するという企画です。空きスペースの白壁を活用することで低価格での展示機会を創出します。

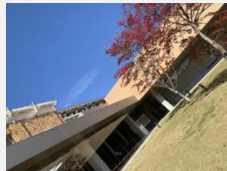
### 2. 「描く」と「撮る」で美術館を感じてもらう (担当: 西濱、古川、岡崎、北川、北村、杉山、山田)

「美術館」「芸術」＝「難しいもの」という考え方を払拭し、京都市京セラ美術館を気軽に立ち寄れる市民の憩いの場にすることを目的とし、美術館の各スポットのそれぞれの魅力や特徴を活かし、「描く」と「撮る」という方法によって、利用者へ美術館を身近な場所と感じてもらう企画を考えました。

- ・東山キューブテラス：子どもが太陽の下で「描く」
- ・旧エントランス：タイムスリップ写真を「撮る」
- ・西側 旧エントランス付近/東山キューブ 東側付近/東山キューブテラス/美術館中央 中庭付近：各行事での家族/友人写真を「撮る」



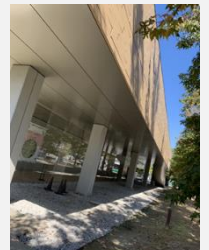
東山キューブテラス



西側 旧エントランス付近



美術館中央 中庭付近



東山キューブ 東側付近

### 3. コレクションルームの魅力発信 (担当: 土方、廣中、黒川、五十嵐、高松、名田、二股)

リニューアルオープンにより新設されたコレクションルームの来場者増加を目的とし、コレクションルームをより一層楽しんでもらうためのツール制作を企画しました。

#### ①キリトリフレームの作成、写真コンテストの開催

入場券にキリトリ加工を施し、切り取ったフレーム部分を撮影する際に利用できるようにします。館内や撮影可能な作品をキリトリフレームを使って撮影し、京セラ美術館のロゴとハッシュタグを付けてSNSに投稿してもらうというコンテンツを開催することで、来場者にコレクションルームの情報発信の役割を担ってもらいます。



#### ②持続可能なコレクションルームグッズの作成・販売

コレクションルームの作品やイラストを用いたグッズ (ecoffee cup、マイボトル、エコバッグ) を作成し販売します。さらに、これらをSDGsに対応したグッズとすることで、環境に配慮した美術館という印象を来場者に与えます。

## 活動を振り返って

(学生の感想)

### 【A班】

- ・さまざまな企画を検討しましたが、結果的に内容がありきたりになってしまいました。
- ・企画検討にあたって、なかなかイメージが浮かびませんでした。
- ・企画検討にあたって、具体的な数値（date）が乏しく、リサーチの必要性を感じました。
- ・企画検討にあたって、発想がふくらず、現実的な企画に偏りすぎてしまいました。

### 【B班】

- ・授業を通してグループをまとめる難しさを実感しました。毎授業出席してくれたメンバーもいましたが、私のグループは他のグループと比較して出席率が悪かったと思います。しかし、メンバー1人1人が意見を持っていることもリーダーの立場を通して実感していたのは事実で、その利点をリーダーとしてまとめることができませんでした。
- ・美術館の方の協力を得て、独自調査を行えたことは良かったと思いますが、その情報を活かすことができなかったのも、その点についても、調査に同行できたメンバー、できなかったメンバー同士でもう少し意見交換していかなければならなかったですし、そういう姿勢をリーダーが見せていかなければならなかったと思います。
- ・メンバー1人1人が意見を持っていることを活かし、もう少し、各メンバーと意見交換をしていかなければならなかったと思います。また、私自身が本番までに何とか完成させなければならぬと焦って一人で突っ走った面もあったので、もう少し、各メンバーに委ねることができれば、円滑に納得のいくアイデア考案ができたと思います。

### 【C班】

- ・何より班員全員が納得して提案したい案を出せたこと、やりきれたことが半年間頑張ってきて良かったと思える事です。
- ・欠席数がとても少なく、一人一人が本講義に真剣に向き合い楽しく取り組めた結果最後にはとても仲良くなりました。
- ・班員全員が全く異なる素晴らしい意見や提案を沢山出してくれたことで、一つの方向性に決めるのに時間がかかりとても苦労しましたが、納得いく軸を決めることができました。
- ・より良いプレゼンにするためにやりたいことが沢山あり過ぎて期限通りに間に合わせるのに苦労しました。
- ・期限からの逆算が甘かったために、最後がとてもバタついてしまい、自分達が理想とする発表動画の完成には至りませんでした。そのため、ゴールからの逆算を行い計画的にグループワークを行おうと思いました。

## 担当教員からのコメント

昨年同様にコロナ禍で受講生の京都市京セラ美術館の総体的な把握までには至らなかった。また昨年同様、当初美術館・博物館に内容的、専門的に強い関心をもつ受講生を予想したが、多くが第1学年で、その関心も多様で、受講生相互に問題意識を共有するのに時間を要したように思う。ただし昨年度よりは強い関心をもつ受講生もあって、ディスカッションは弾んだように見受けられた。

授業では3班構成で取り組んだ。昨年度は各班とも関心の強い受講生のリーダーシップが発揮され、企画の取りまとめは思ったより早かったが、今年度はそれぞれ関心をもつ受講生が複数いたため、昨年度に比べて企画の取りまとめや内容を確定には、ディスカッションが弾んだ分、ずいぶん時間がかかったように思われる。最終的には美術館側の適切なアドバイスにより、各班の着眼点に応じて、試行錯誤しながら取りまとめまで到達した感がある。これも昨年度の反省点と共通するが、3班相互に連携し統一的な大きなテーマでまとめ上げることができなかった。



## 活動資料

### 1. 白壁の有効活用 (担当: 稲童丸、木下、中塩、濱地、川口、大久保、ZHANG)

初めに 京都市美術館の注目すべきポイント

- ①螺旋階段 ②白を基調とした博物館内部の室内 ③建物の外観

#### 1 博物館の抱える課題

- ①展示に向かない部屋をどう活用するか (火災報知器などの関係で展示に向かない部屋がある)  
→ こういった部屋をどのように活用するか  
②若い世代の来場者をどう増やすか  
→ 若い世代に美術館に興味を持ってもらう必要

#### 2 企画するにあたって

京都市美術館再整備基本計画 (2015年; p16) 運営の柱「次世代の育成、教育普及・調査研究の充実」の

- ・芸術系大学や美術団体展覧会会場として施設を提供、若手作家や市民の創作活動を支援する
- ・子どもや先生を対象に常設展の鑑賞講座やワークショップ、作家の創作過程の公開などの体験プログラムを実施する

この2点を意識して計画を立案

#### 3 具体案 (白壁をスクリーンとして活用)

例1 子ども向け投影美術館体験プログラムの展開

- ・・・美術館を訪れた子どもたちにテーマに沿った絵を描いてもらい、壁に投影された背景の上で動かす

<期待できる効果> ①子どもを連れてきて良い場所であるという意識を与える

②子どもの利用満足度を高める

③美術館運営の柱を達成

④子どもにとって美術館を身近な場所に

例2 映像作品の上映

<期待できる効果> ①低価格での展示スペースの提供

②展覧会との相乗効果



京都市美術館  
について

- ・1933年に日本で2番目の美術館として開館、今年で88周年を迎える。
- ・2020年3月にリニューアルオープン、呼称を「京都市京セラ美術館」へ
- ・同地域に立地し、周辺には京都府立図書館や京都市動物園、平安神宮、岡崎グラウンドなどがある。この地域は様々な施設があるので若男女問わず賑わっている。

#### 新！京都市美術館の注目ポイント

- ・和洋折衷の美しいモダン建築
- ・白を基調とする美しい室内
- ・螺旋階段

#### 新！京都市美術館の課題

- ・若い世代 (高校生以下、大学生など) の来場者数を増やしたい。

#### 課題解決方法を企画するにあたって

A班では、京都市美術館再整備基本計画 (2015年; p16) 運営の柱「次世代育成、教育普及・調査研究の充実」の

- ・芸術系大学や美術団体に展覧会会場として施設を提供、若手作家や市民の創作活動を支援する。
- ・子供や先生を対象に常設展の鑑賞講座や、ワークショップ、作家の創作過程の公開などの体験プログラムを実施する。

という2点を意識して計画立案を行うこととした。

- ・京都市美術館自慢の白壁と空きスペース...

#### 白壁をスクリーンとして プロジェクターで活用しよう！！

- ・具体的には...
- ①子供向けの投影型美術体験プログラムの展開
- ②映像作品の上映 (展示)



#### 京都市美術館自慢の白壁と空きスペース...



#### ①投影型 美術体験プログラム

美術館を訪れた子供たちがテーマに沿って絵を描いてもらい、それを機材を利用して壁に投影されている背景の上で動かすといった体験プログラム

期待できる効果：  
小学生などの子供層 (ファミリー層) の利用者獲得

子どもを連れて来たい場所であるという認識を与える。

子どもの利用満足度を高める。

3年後の美術館の柱を達成

子どもにとって美術館を身近な場所に



#### ②映像作品の上映

期待する効果：①低価格での展示スペース提供  
②展覧会との相乗効果

- ① 1. 企画の展示替えの空室期間や空室スペースなどを活用することで、学生も展示しやすい費用と規模で入会を提供  
①-2. 施設を利用する入会生を増やすことで施設を訪れる入会生も増やすことができる  
②-1. 映像作品の利用許可が得られる場合、展覧会や展覧会関連の映像作品を上映することで、より展示に対する興味・関心・理解を得ることができるとは思いますが。



#### まとめ

#### 企画案

- ・①子供向けの投影型美術体験プログラムの展開

- ・②芸術系大学や美術団体の映像作品、展覧会のテーマに関連する映像の上映

プロジェクターを活用し、幅広い年齢層の満足度向上を目指す

ご清聴ありがとうございました。

## 2. 「描く」と「撮る」で美術館を感じてもらう（担当：西濱、古川、岡崎、北川、北村、杉山、山田）



何故そう考えるのか  
実際に足を運んでみると、長い歴史を感じることで内装、外装に圧倒された  
落ち着きのある空間

↓

感動するものは単純、シンプルだった。

↓

しかし、「専門性の高い施設」、「芸術＝難しいもの」といった印象を持っている人が  
多く、気軽に立ち寄れない。

↓

「美術館」「芸術」＝「難しいもの」という考え方の払拭し、  
京都市京セラ美術館を気軽に立ち寄れる市民の憩いの場にする。

実施例  
東山キューブ・テラス  
→子どもが太陽の下で描く

旧エントランス  
→タイムスリップ写真



西側 旧エントランス付近/東山キューブ 東側付近/  
東山キューブテラス/美術館中央 中庭付近  
→各行事での家族/友人写真

### 目次

1. テーマ
2. 何故そう考えるのか
3. 実施取り組み例
4. 取り組みによる変化

「描く」と「撮る」で美術館を感じてもらう。



### 取り組みによる変化

- ・美術館認知度の向上  
→新たなニーズの獲得
- ・近隣施設との連携で街づくり
- 近隣風土の向上
- ・「芸術」に触れ合うきっかけづくり
- 若い世代、新たな世代への普及

### テーマ

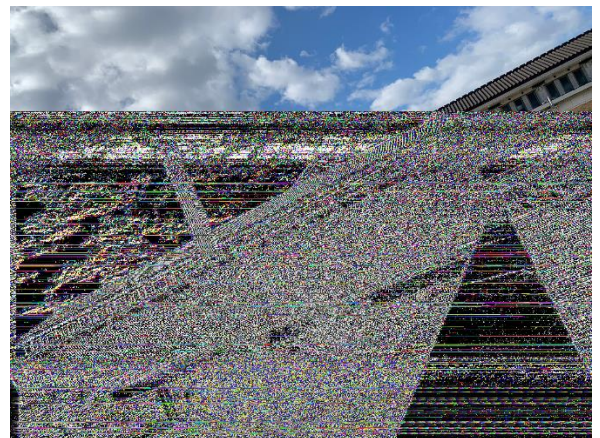
京都市京セラ美術館を専門性の高い施設としての活用だけでなく、  
多くの京都市民にとっての「若い出掛け場所」「集り所」として認  
識してもらう。

### 実施場所

1. 西側 旧エントランス付近
2. 東山キューブ 東側付近
3. 東山キューブテラス
4. 美術館中央 中庭付近



ご清聴ありがとうございました。





### 3. コレクションルームの魅力発信 (担当: 土方、廣中、黒川、五十嵐、高松、名田、二股)

#### (1) キリトリフレームの作成、写真コンテストの開催

◇キリトリフレームとは、

コレクションルームをより楽しんでもらうためのツールでチケット部分とフレーム部分を切り取ってから使用することが名前の由来です。写真を撮る際に使用します。

表はコレクションルームの展示品や、京都市京セラ美術館のロゴを施したデザインに、裏はどこでも使えるシンプルなデザインにします。

入場チケットにキリトリ加工をすることで余分なコストと紙を削減します。

◇サイズ

チケット部分が7.8cm×4.5cmでスマホケースに入れられるサイズ。フレーム部分を12.5cm×6.5cmとし、チケットと切り離してフレームとして使えるようにします。

◇キリトリフレームコンテスト

キリトリフレームを活用したコンテストで、館内や撮影可能な作品の写真をフレームを使って撮影し、京セラ美術館のロゴとハッシュタグを付けてSNSに投稿してもらいます。

投稿作品から5つほど選び、グッズをプレゼントします。

#### (2) コレクションルームの魅力発信

◇SDGsの12項目目(作る責任・使う責任)に該当する美術館の観点

プラスチック廃止、レジ袋やカフェでのストローなどプラスチック製を使用しない。

◇グッズ化

コレクションルームの作品イラストをecoffee cup やエコバッグなどに描き作成することで、環境に配慮した美術館として注目されることが期待されます。



コレクションルーム：春期 展示風景 撮影：堀永一夫